

『祝宴の舞台裏』ヨハネ2:1-11

2:1 三日目にガリラヤのカナに婚礼があって、イエスの母がそこにいた。

2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。

2:3 ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなってしまいました」。

2:4 イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。

2:5 母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従って、それぞれ四、五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあった。

2:7 イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。

2:8 そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行なさい」。すると、彼らは持って行った。

2:9 料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかったの、（水をくんだ僕たちは知っていた）花婿を呼んで

2:10 言った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったころにわるいを出すものだ。それなのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」。

2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた。

●序論

今日、「カナの婚礼」と題されていながら、実際には、その表舞台の婚礼の様子はほとんど描かれていません。そこに記されていたのは、通常出席者からは関心が向けられることはない、裏舞台の物語です。

その裏舞台に、マリヤがいた、僕たちがいた、そしてイエスさまがいらして、そのしるしがなされた。それがなければ、表舞台の祝福された宴はなかったのです。そして聖書は、この裏舞台の物語が、その公生涯での最初のしるしだと記しているのです。

●本論

I. 母マリヤがそこにいた

2:3 ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなってしまいました」。

2:4 イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。

マリヤがこの婚礼での役割があった野かはわかりません。いずれにしてもマリヤは、そのありのままの出来事を、イエスさまに伝えています。

これはマリヤの素直な信仰です。これは、祈りのありさまでもあります。

これは大切なことです。マリヤは実情をそのまま述べることでイエスさまの応答を待ちました。それが彼女の信仰であり、イエスさまを親しく知るからこそその祈りのありさまでした。

ここで、イエスさまの答えは、聞く者には期待外れでしょう。むしろ、母マリヤの言葉に対して、やけに冷たく思うような言葉に聞こえます。

「わたしの時はまだ来ていない」。つまり、ご自分の生涯のクライマックス「十字架の時」を目指すご自分の歩みと使命をここで語りだしています。

それは、単純に今何もしない…ということではなく、今はまだ十字架に至るまでの道のりの途中であることを語っています。

ん？…そんなことを着ているんじゃないんだけど…そう感じる答えです。

ある意味ちぐはぐに聞こえますが、こういう答えは、問題と問題の解決を求めて祈る人が、しばしば経験する神さまの答えに似ているかもしれません。

祈っても、なかなか”自分が思ったようには”答えてもらえない。しかし、そうして祈っている中で、今まで見えてこなかった、いろいろな気づきが与えられている。

むしろ、この問題を通して、わたしが、神さまを良いお方として、本当に信頼しているだろうか、と試されていることに気づく。

そうして、神さまがわたしたちを、神さまの目的と御業があらわされるまでの、道のり（プロセス）に置いて、導いてくださっていることに気づかされるのです。

ただ実際には、わたしたちは自分の祈った通りにならないことや、祈りが聴かれている実感がないことにいらだっていることはないでしょうか。

しかし、マリヤは違いました。イエスさまを、自分の思った通りに動かそう、としたのではなく、ただ実情をお話しして、イエスさまのなさることに信頼を寄せたのです。

聖書は、マリヤがイエスさまに失望したとは記していません。

自分は伝えただけだから、あとはイエスさまがなさることに信頼をしてゆだねたのです。そしてマリヤは、その信仰によって備えをしました。

2:5 母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」

この裏舞台の物語に、マリヤの信仰の行動が効いていると思いませんか？

II. 従順な僕たちがそこにいた

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従って、それぞれ四、五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあった。

2:7 イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。

2:8 そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。すると、彼らは持って行った。

マリヤの言葉によって、僕たちの心に一つの備えがなされました。

「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」

彼らは、”僕として”、イエスさまの言われることを、誠実に実行しました。

かめに水を入れる。告げられたことを、彼らは、”僕として”、誠実に行いました。

その僕として従順に…という姿勢は、わたしたちが見習うべき模範です。

ここに、先なのマリヤの言葉が利いていたと思います。

そうして「僕として従順」を通して、彼らは、そこに起こった奇跡に気づき、知ることができたのです。

のちにぶどう酒に変わった水を料理がしらが発見して、花婿に伝えたところの記事にはこうあります。

2:9 料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかったの、（水をくんだ僕たちは知っていた）花婿を呼んで

2:10 言った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったころにわるいのを出すものだ。それなのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」。

「水を汲んだ僕たちは知っていた！」この言葉が、彼らの従順によって経験したすばらしい、イエスさま体験となっていたのです。

Ⅲ. 主イエスさまがそこにいた

2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。

それは表舞台で行われた華々しいものではない。でもその裏舞台こそが、表舞台の祝宴とその喜びを全面的に支えるものとなったのです。

この礼拝もそうです。礼拝は、自動的に出来上がるものではありません。

礼拝の少し前にお見えになると、よく牧師がどたばた焦って何かしているのを見ることがあるかもしれません。

裏舞台で、実によくトラブルなのです。だからわたしはこの礼拝のために祈っています。

よく御言葉を語るができるように、そしてすべてが守られるように、機材も準備も、皆さんのこともこの座席に座る皆さんを心に思い描いて祈っています。

わたしはそういう時、そこで色々な修復を試みながら、祈ってイエスさまの御業を求めるようにしています。2つのことに気づかされているからです。

1) そういうトラブルの背景の中には、しばしば霊的な妨げがある。

2) たとえそういうトラブルの中にさえも、イエスさまの臨在ある中には、わたしたちの期待とは異なる祝福が備えられている。

ここに、わたしたち奉仕者が置かれていて祈っている。皆さんが集い礼拝をささげている。そして主イエスさまがここにいてくださるからです。

マタイ18:20 「…ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」

最後に)

大きなかめの水は、「ユダヤ人のきよめのならわしに従って」とあるように、婚礼に来る客が、律法の示す汚れを洗い落とすという行為のためでした。

それは、象徴的な行為です。そこにあるただの水で、外側を洗うことはできても、人がかかえる罪の束縛と呪いからの解放は、なし得ません。

しかしイエスさまは、このただの水をぶどう酒に変える奇跡を通して、その祝宴にさら

に豊かな喜びをくださいました。

それは、イエスさまが十字架でご自身を犠牲にして、ただ信じる者を罪から救い、赦された存在、義人に変えるみわざを象徴しています。

だからこれを、聖書は「最初のしるし」としるし、「その栄光を現された」と語るのです。

2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた。

私たちは、今世界がかかえるさまざまな困難な問題について祈っています。

どう祈ったらいいのかわからない…。そういう現実の中でわたしたちはとりなし祈っています。

マリヤに注目してください。彼女は行動を起こしました。その現実をイエスさまに訴え、そして、今ふさわしい人に、そのイエスさまが言われたならば、その通りするようにと告げました。

イエスさまが良いお方であることを信じて、その御名によって祈る事を決してあきらめてはならないのです。

それが私たちが置かれている、裏舞台だと私は信じます。

そうやってイエスさまの御業を期待して祈りましょう。わたしたちの想像したやり方ではないかもしれない。でもイエスさまはわたしたちの祈りを、確かに聞いてくださり、その御業をあらわしてくださるでしょう。

キリストが、わたしたちを置いてくださっている人生、職場、家庭、教会は、すなわち私たちに与えられている「舞台」です。それがたとえ裏舞台であり、人に気づかれないものであっても、あなたは、そこで使命に向き合い、また課題に向き合い、イエスさまに信頼して祈り従う時、あなたは神のみわざ見ることができると信じます。